



令和2年11月1日発行
 第1号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町10-16, 234-6015)

発刊のことば

岡山市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
 公民館振興担当課長 公民館振興室 室長 上野 喜宣

この度、公民館振興室では、「公民館ニュース」を発行することとなりました。

岡山市では、平成31年3月に「岡山市立公民館基本方針」を策定し、「ともにわたしたちが未来をつくる開かれた公民館」の実現を目指し、取組を進めているところでございます。

今後、「公民館ニュース」を通じ、公民館基本方

針の推進に関わる公民館振興室ならびに各公民館の取組や実践、成果の紹介をすることで、市民の皆様の公民館活動への理解を高めていただけるような情報を発信できるよう、紙面の充実に取り組んでまいります。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「ともにわたしたちが未来をつくる開かれた 公民館」 出会う つながる 学び合う 活躍する の実現めざす公民館の基本方針

岡山市として策定した公民館の基本方針についてご説明します。右は、この基本方針を1枚の図にしたものです。

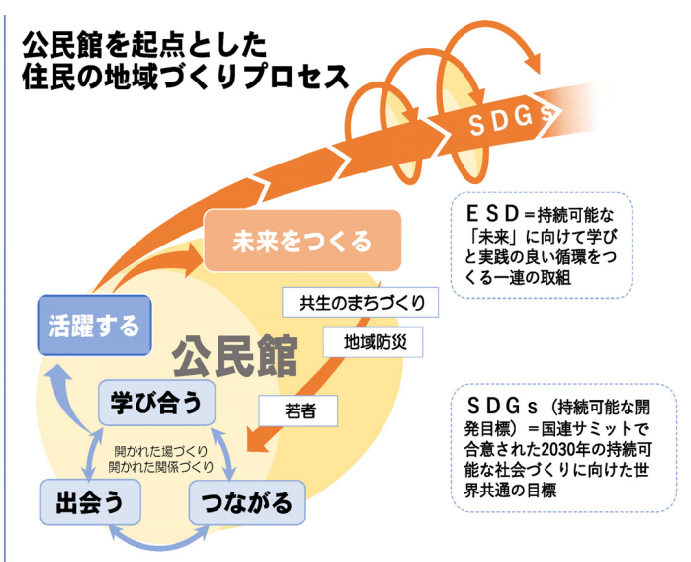
めざす公民館像

基本方針は、「すべての人に開かれ、地域から世界へと開かれた自由な学び合いにより、多様なつながりが生まれ、社会の問題をわたしたちのこととしてとらえ、学びと実践を繰り返しながら未来へと一步一步進み、一人ひとりの人生を豊かに、そして、持続可能な社会づくりに貢献する公民館をめざす」という公民館像を掲げました。

対話を重視し、学んだことを活かして活躍する

この方針は今まで公民館が目指していたことを、よりはっきり打ち出すとともに、新たな公民館を作ることにも打ち出しています。出会った人たち同士の対話を通してつながりをつくる。一緒に学び合い、その学びで得た力とつながりを活かして、地域で新しい活動を作り出し、誰もが支え合って暮らしていける持続可能で共生できるまちを築いていく。そういう活動が広がるよう力を発揮する、そんな公民館のイメージです。

講師の話を聴いて終わりではなく、そこから活動が始まる。子ども食堂のような活動が始まっても良いし、



暮らしの支え合いの活動が始まるのもよし。大切なことは、公民館での学びやつながりがあったから、地域で何か新しいことが始まる。そんな公民館活動を作っていきましょうという投げかけなのです。

そんな公民館活動をどうすれば皆さんと作っていかれるか、公民館職員は館を超えてつながり、基本方針を推進するためのワーキング・グループを作って、実践研究を進めています。基本方針について詳しいことを知りたいという方は、ぜひ公民館職員にお声かけください。

公民館の実践紹介①

富山公民館 世代を超えて地域の未来を語り合う ～とみやま未来塾「気候変動の地元学」～

地域の課題とは

富山学区は人口約13,600人、約6,200世帯の地域です。富山公民館が開館して30年、公民館は地域の学び合いの拠点として地域づくりを進める様々な活動やグループを生み出してきました。



第1回の会の冒頭で挨拶する館長

各団体の活動も活発に行われ、近年では地域の防災力向上の取り組みや地域の支え合いの活動としてとみやま助け合い隊も発足しています。2011年からは地域の諸団体による「富山学区安全・安心ネットワーク」が構築され、その中枢を担う「小地域ケア会議」が2017年に学区全戸アンケートを実施して、その分析検討から第一次地域福祉活動計画が策定されました。その策定過程において「①地域活動の後継者の育成が急務 ②地域での数々の取り組みの横の連携が脆弱 ③地域の未来ビジョンが共有化されていない」以上の三点でまとめられる地域課題が明らかとなりました。

地域課題の解決のために

地域課題の解決をめざして、学区の安全・安心ネットワーク内に既に開設されていた世代を超えた学びの場としての「とみやま未来塾」を活用することになりました。とみやま未来塾では課題③の未来ビジョンが共有化されていない点に着目し、地域の未来のビジョンを描くために共有化される理念としてESD、SDGsに拠ること、学ぶことがひいては①後継者の育成、②地域活動の横の連携につながっていくのではないかと考えてに至りました。一般に未だに定着しているとは言えないESD、SDGsの理念をどのように、とみやま未来塾という学びの場でカリキュラム化していくのかは公民館に一任されることになりました。

富山公民館としては地域の老若男女の方々に、例外なく影響を受けている現在の異常気象への危機感を契機としてESD、SDGsの理念を理解して受け入れてもらいたいという方向性を定め、環境政策を専門とされていた山陽学園大学 白井信雄教授の「気候変動の地元学」の導入を目指しました。

半年間にわたってESD、SDGsの観点から気候変動の地元学を読み解き、山陽学園大学 高橋功准教授の社会調査の手法も取り入れ、2019年にとみやま未来塾のカリ

キュラム化を完了することができました。

とみやま未来塾の果たすべき役割とは

2020年に富山公民館開館30周年記念事業として位置づけた「とみやま未来塾～気候変動の地元学～」を開催することになりました。コロナ禍のため半年遅れとなりましたが、全7回（2020.8月～2021.8月）のプログラムは「なぜ今、気候変動の地元学なのか」をテーマとしたシンポジウムと記念講演から始まり、8月には「脱炭素社会の実現（緩和編）」、10月には「気候変動適応社会の実現（適応編）」、12月には「緩和と適応を踏まえ、どのような社会を目指すのか」のディスカッション、1月には社会調査の分析結果も取り入れて最終的には「ライフスタイルの変容と再構築を目指す」という構成となっています。

「学び合い」から新たなつながりや未来への展望を

地域の各団体に次世代を担う人たちの参加を公民館が呼びかけたところ、約40名の参加者は男女の割合もほぼ半々、約3割が現役世代を含む30代から50代の方々となりました。相



ワークショップに取り組む参加者

手の意見を否定しないという議論の原則に基づくワールドカフェ方式によるディスカッションに参加した方々からは「今の気候変動に強い危機意識が持てた」「ESD、SDGsが私たちの未来を考えるうえでの基本的な理念だと感じた」「地域の未来を話し合うことが楽しく興味が持てた」「世代を問わずコミュニケーションをとることが大切なことだとわかった」などの前向きで熱い思いが伝わる感想が毎回、多数寄せられます。

気候変動への危機意識を起点としてESD、SDGsの理念を再認識することで、一人一人のライフスタイルの変革までを目指したとみやま未来塾で学んだ塾生たちが今後、地域のために何を考え、地域に何をもちたしてくれるのか将来へ大きな期待感を持ちながら地域社会の要(かなめ)を担う富山公民館も見守っていきたいと思っています。なお、2021年8月には次世代を担う地元中学生に対して、未来塾の塾生と大学生との協働で学び合う機会を設け、持続可能な地域社会の実現に努めていきたいと考えています。

公民館の実践紹介②

西大寺公民館

外国人が住みやすい地域へ

岡山学芸館高校
甲南大学

学生たちがゲームを考案

風習も紹介 みんな笑顔に

増加する外国人市民の人口

岡山市の外国人市民は13,000人を超え増加の傾向にあります。その要因の一つに、『外国人技能実習制度』が挙げられます。平成29年11月1日に外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律が施行されてから、岡山市の外国人住民の割合では、留学、永住者に続き技能実習（18%）が第3位になっています。国籍別にみると、ベトナム（23%）が韓国・朝鮮（20%）を抜き、中国に次ぐ第2位に浮上しました。

西大寺公民館には「日本語教室」というクラブ活動があります。それまでは平均2人/回の参加者でしたが、平成30年から覚えない日本語で「日本語教室ありますか？」の問い合わせが増え、クラブの参加者が10人を超えるようになり、クラブの講師から「この状況では指導者が足りない」と相談されました。

地元の高校・大学と協働してフィールドワーク

時を同じくして地域の方から、「使わない毛布やストーブがありませんか」という問い合わせを受けました。事情をうかがうと「タイとベトナムからの技能実習生のお世話をしている、日本の冬が寒いので暖房器具を集めています」とのこと。このときにはじめて、西大寺学区のある町内会がそこに住まわれている技能実習生の皆さんのお世話をされていることを公民館が知りました。日本語教室にも町内会の有志の方が付き添って来られていることもわかりました。

この現状を受けて、「公民館に何ができるだろうか」と考えていたところに、ESD推進課から1本の電話が入りました。地元の岡山学芸館高校が、甲南大学のSDGsチャレンジアカデミーに多文化共生をテーマにエントリーしているのでサポートしてほしいとの依頼でした。願ってもないチャンスと依頼を引き受け、岡山学芸館高校の担当の先生と甲南大学の担当教官と打ち合わせをして、まずは地域の現状を把握するためフィールドワークを実施し、日本語教室の協力のもと教室に通っている技能実習生と、彼らをサポートしている町内会長に聞き取り（写真①）を行いました。



写真①

言葉の習得目的に 言語交換ゲームを考案

岡山市の関係課の聞き取りを経て、高校生と大学生のグループが外国人住民が住みやすい地域になるための提言として「Language Exchange Game」を考案しました。



写真②

このゲームは、互いに学び合う姿勢を持ちwin-winの関係で言葉を習得することを目的にしています。このゲームが実用化できるか、再び日本語教室の協力を得て岡山学芸館高校の生徒が実践

してみました（写真②は中国語、③はベトナム語が母語）。

ある言葉を3枚のヒントカードから連想します。ヒントカードはそれぞれの母国語で書かれていて、母国語で読んでもらった後にその言葉を日本語に訳して高校生に伝えます。



写真③

日本語に訳されたヒントを手掛かりに高校生は問題の答えを探ります。最初は互いにぎこちなさがありましたが、回数を重ねていくうちにみんなが笑顔になっていきました。やり取りの中で、互いの国の風習も紹介しあっていました。日本語教室の受講者が、テキストで勉強しているときには見られないような楽しい雰囲気醸し出していたのが印象的でした。

互いの国の理解深め 住みやすさにつなげる

教室で習う日本語は必ずしも実用的ではない、ということが聞き取りから導き出されました。特に岡山では日常会話に方言が使われたりします。実用的な会話は、日々の関わりの中でこそ深められると思います。技能実習生は3年～5年の短い在留になります。居住期間の長さで『よそ者』扱いする人も、いまだに見受けられます。縁あって同じ岡山市に住む者として、互いの国の理解を深められるよう、外国人技能実習制度を理解したり、互いの文化や慣習にふれる機会を作ったりして、文化交流が言葉の習得や住みやすさにつながるような場を、関係機関と協力して地域に構築していきたいと考えています。

新型コロナウイルス対応と公民館の取組み

公民館振興室

岡山市の公民館では、新型コロナウイルス感染防止のための指針を作成しています。感染防止策の基本は、「密閉」「密集」「密接」の三条件が重なる活動は行わないこと。そしてそれぞれが、手洗いや手指の消毒を徹底し、マスクを着用し、咳エチケットを徹底するなどの対応を守っていただくようお願いいたします。また、公民館の部屋を利用される際には常時換気に努め、窓が十分開けられない場合は、毎時2回以上（30分に1回以上）窓を全開するなどして数分間換気を行うようお願いしています。詳しくは各公民館にお尋ねいただくか、下記のホームページをご確認ください。

<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000019832.html>

「はなれて つながる こうみんかん」の取組み

岡山市の公民館では、新型コロナ感染症の感染拡大防止のため、主催講座、クラブ講座を5月31日まで休止していたため、みんなでつどい、出会う場を直接公民館として提供できない状況でした。それでも、活動自粛中でも「はなれて つながる」取組が、ホームページや公民館のロビーなどを利用し行われていましたので、そうした公民館の活動を公民館のホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000021496.html>

このホームページには、例えば足守公民館の「フード&ライフドライブ」の取組み、御津公民館のoniビジョンと協働した「テレビde公民館」。また、富山公民館の布マスク「助け合いBOX」や、会えなくてもつながろう！

公民館メッセージ紹介の取組み。藤田公民館の「ふじたのかるかた」で地域のよいところ再発見などの取組みが紹介されています。

オンラインの取組みも進んでいます

公民館では、いち早くZoomを使ったオンラインの講座や職員の研修なども始めています。御津公民館では、オンラインの日本語教室を開いていますし、東山公民館では子どもが自宅から参加する料理教室も実施しました。パソコン教室のためのパソコンやインターネット回線、Wi-Fi環境の整備など、これまで進めてきたことが役立っています。

公民館のITボランティアの皆さんも、こうしたインターネットを活用したオンラインの取組みを広げるためのスキルアップの努力を始めています。

公民館でのインターネットやWi-Fiの利用

公民館が持っているパソコンやインターネット回線、webカメラなどは、公民館の部屋を使用する場合、空いていれば学習目的で利用することができます。（部屋によっては使えない場合もあります）

ロビーではWi-Fiも使えます

公民館のロビーではWi-Fiも利用できます。（「桃太郎のまち岡山Wi-Fi」、御津・建部町公民館を除く）というサービスを利用しているもので、1回30分、1日8回まで使えます。スマホやパソコンをネット接続して利用することができます。詳しくは各公民館へ。

公民館の新たな挑戦 「若者」×「公民館」プロジェクト

岡山市の公民館では、若者を地域とつなぐことを重点敵に取り組みむことにしており、「若者が担い手となり、自らの思いやアイデアが形になり、地域の発展につながり、広がっていくような活動の支援や、地域活動への参画の機会を提供する」目的で新たな事業を始めています。その名も「あなたのやりたいこと×公民館応援プロジェクト」ですが、「若者」×「公民館」プロジェクトと呼んだ方がわかりやすいかもしれません。

大学生や高校生からやってみいたいという申し出があり、数件が実現し、さらに数件が実現に向けて動き出しています。若者のアイデアででき上がった企画・事業は、別に個別にチラシ等でご案内しますが、ぜひご参加、ご協力ください。

現在、高校生が企画した「A0107」（え〜おとな）グランプリに出てくださいる方の推薦を公民館で行っています。チラシが置いてありますので、ぜひご協力ください。

若者 × 公民館 で始める 未来のつくりかた
あなたのやりたいことを公民館が応援します！

中・高・大学生や若者のみなさん！
地域でこんなことでできないかなあと、あなたが思っているアイデアを、公民館に持ち込んで一緒に実現してみませんか？
自分たちが楽しむことで周りの人も幸せになれること、オンラインで始めるあれこれ、抽選可能なまちづくりのためにこんなことやりたいなど、あなたが持っている夢を公民館に持ち込んでください。公営職員と一緒に企画を練り上げて、実現をサポートします。

一つのアイデアの実現に、最大10万円の講師用謝礼金を用意しています！

募集期間 令和2年8月～12月
実施期間 令和3年3月まで
準備に時間がかかる場合は4月以降の実施もあり得ます

募集対象 中・高・大学生又は若者（個人）やそのグループ

こんな内容を
地域や自分たちが抱えている問題を解決するもの、公民館で取組んでいない新しい分野、ネットの活用など新たな方法に挑戦するもの

・地域活性化やまちづくりにつながるような分野で、そこに
ある問題（福祉や文化、仕事づくり、子どもたちの居場所づくりなど、多様な分野を含む地域の諸問題）を解決する取組み。
・感性を活かした、まちが元気になるような取組み
・WEBを活用したオンラインでの開催もあります。
※まずはご相談ください。

申込み・問合せはこちらへどうぞ（裏面もご覧ください）
岡山市教育委員会 生涯学習課 公民館振興室
TEL: 086-234-6015 FAX: 086-234-6016 Email: kouminkanshinkoushitsu@city.okayama.lg.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
ここから始まる あなたのやりたいこと×公民館 公民館革命!? 事業名称 応援プロジェクト